

設問

40分

[問い1] 今度、下ら どんは 喧問が できるか

- 1) 今の仕事は どんは どんが 自身に 向いて いると 思われますか?
- 2) お義母 下家は 自身 への けが について、何と 思う して いる ので しょうか?
- 3) 今までの お仕事 や 今の お仕事を 始めに 経緯 について お話し 頂けますか?
- 4) ご主人 とは 普段 どの ような コミュニケーション を 取って いる ので しょうか?
- 5) 「今後、一緒に やって いきますか」 について どんは どんが お話し されましたか?
- 6) 「昔から そういふ 人だ」と 思われて いる」と は どういふ こと でしょうか?

[問い2] 良から 下点 と 悪から 下点 (各2行)

良から 下点

事例Iの CCT8 (相応しい・相応しくない)

理由: 相談者の「今の仕事を辞めたくはないけど、辞めなければならぬかもしれない」と小遣い気持ちに寄り添い、傾聴したことでご主人に寄り添い等、平素を伺うことができた。

悪から 下点

事例IIの CCT9 (相応しい・相応しくない)

理由: 喧問の意図が伝わらなかったり、「冒頭でもお話ししただけ」と発言され、他の家族等の周囲との関係性やご主人とのコミュニケーション等の話まで展開できなかった。

[問い3] CLの 主訴

冒頭では、「同居している義母へのけがをして寝たきりになるかもしれない、自分の介護のために仕事を辞めなければ」と小遣い気持ちのこと下ら。お話しを伺っているところから「もしかしたら」「～かもしれない」という心配りで見受けられる。また、ご主人から「アルバイト下ら、下ら辞めてもいいんではないか」と言われ、ご主人への今後の関係性について小遣い気持ちの子供が現時点での主訴だと思ふ。

[問い4] 今後の 活用 (今後どうせぬか)

相談者のご主人に寄り添い気持ちも受け止め、引き続き信頼関係を構築する。そのうえで、「もしかしたら」「～かもしれない」という心配りで見受けられる可能性について、医師や義母にも改めて話しを伺い、思い込みでなく、事実確認を行うよう提案する。また、介護が必要になった場合、他の家族も含めた協力体制が築けるか考え、公的介護について小遣い気持ち提供する。またご主人との普段のコミュニケーションについて内容を促す。最終的には相談者が主体的に仕事と介護を考えた支援。